

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 769 号 令和 7 年 6 月

目次

○令和 7 年度第 1 回理事会開催報告（常務理事）	1
○令和 7 年度定時総会開催案内	1
○徳山支部総会開催報告（徳山支部事務局 木原一郎先生）	2
○防府支部総会開催報告（防府支部事務局 豊川 剛先生）	3
○山口支部総会開催報告（前山口支部支部長 藤原宣義先生）	3
○宇部支部総会開催報告（宇部支部 中越一郎先生）	4
○長北支部総会開催報告（長北支部 米津 悟先生）	5
○下関支部総会開催報告（下関支部 原田秀明先生）	5
○第 61 回(2025 年度)山口県獣医学会開催要領	6
○令和 7 年度第 1 回学会運営委員会開催報告（常務理事）	9
○リレー随筆（山口支部 中谷幸穂先生）	9
○宮入貝供養碑（岩柳支部 三好雅和先生）	10
○AI ツール（下関支部 原田秀明先生）	11
○One Welfare 国際研究センター一般公開シンポジウムの報告（山口支部 中間實徳先生）	11
○事務局だより	13

令和 7 年度第 1 回理事会開催報告

常務理事 酒 井 理

令和 7 年 5 月 13 日(火)13 時 30 分から、県獣医師会館 2 階会議室において、令和 7 年度第 1 回理事会が開催されました。

理事 13 名中 12 名、監事 3 名全員に出席いただき、田中尚秋会長から、平素からの会務運営への協力・支援に対する謝辞等の挨拶の後、次の 7 件の議案について審議していただきました。（全て承認事項）

第 1 号議案 会計処理規程の一部改正について

第 2 号議案 令和 6 年度事業報告及び決算について

第 3 号議案 令和 7 年度定時総会について

第 4 号議案 新規加入会員について

第 5 号議案 支部長の交代について

第 6 号議案 職域部会及び委員会委員の交代について

第 7 号議案 令和 7 年度会長表彰（県獣、中獣連、日獣）について

第 1 号議案では、新会館の取得等に伴い、本会の固定資産に、「建物附属設備」、「構築物」、「災害時動物救護準備資金」を追加する会計処理規程の一部改正について承認されました。

第 2 号議案では、令和 6 年度事業報告及び決算について承認されました。

第 3 号議案では、令和 7 年度定時総会議案に、次の

予告

令和 7 年度定時総会の開催

次のとおり開催します。出席される会員は、5 月中旬に送付した総会議案書をお持ちください。

- 日 時 令和 7 年 6 月 8 日（日）午後 2 時から
- 場 所 防長苑 2 階 孔雀（山口市熊野町）
- その他 定時総会終了後に、令和 7 年度山口県獣医師連盟通常総会を開催します。
また、行事終了後に、交流会を開催します。

7件の議案を提出することについて承認されました。

- ①令和6年度事業報告について
- ②令和6年度決算について
- ③令和7年度事業計画書について
- ④令和7年度収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みに関する書類について
- ⑤令和7年度会費の額及び徴収方法について
- ⑥役員候補者推薦規程の一部改正について
- ⑦任期満了に伴う理事及び監事の選任について

第4号議案では、入会申込書の提出があった次の7名の新規入会について承認されました。(敬称略)

支 部	氏 名
徳 山	矢 田 大 輝
山 口	木 本 裕 桓
山 口	田 中 惇 暉
山 口	金 岡 奈 穂
宇 部	脇 本 美 保
宇 部	山 本 温 貴
長 北	繁 永 智 里

第5号議案では、次の3支部の支部長の交代について承認されました。長年、円滑な支部運営にご尽力された前支部長の皆様に感謝申し上げます。(敬称略)

支 部	前支部長	新支部長
山 口	藤 原 宣 義	藤 井 満 貴
豊 浦	水 藤 創	岡 村 真 吾
県 庁	古 谷 知 広	吾 郷 英 昭

第6号議案では、県職員の異動等に伴う職域部会及び委員会委員の交代について承認されました。

第7号議案では、令和7年度の表彰候補として支部から推薦のあった、山口県獣医師会会長表彰候補6名、中国地区獣医師会連合会会長表彰候補3名、日本獣医師会会長表彰候補者1名について承認されました。

出席者から他の協議事項等の提案はなく、白永伸行副会長から、会議の円滑な進行への謝辞と定時総会開催時の協力を依頼し、会を閉じました。

支部総会開催報告

令和7年度山口県獣医師会徳山支部定時総会及び周南獣医師会通常総会報告

徳山支部事務局 木 原 一 郎
(周南市徳山動物園)

令和7年5月10日午後1時より、周南市駅前図書館交流室において、「令和7年度山口県獣医師会徳山支部定時総会」並びに「周南獣医師会通常総会」が開催されました。今回は支部会員35名中16名が出席され、白永伸行山口県獣医師会副会長にもご臨席いただきました。ご多用の中、診療の合間に昼休みを利用してご出席いただいた会員の先生方も多く、感謝申し上げます。

開会にあたり、橋本介志支部長よりご挨拶をいただき、続いて来賓として白永副会長よりご祝辞と、最近の獣医師会を取り巻く情勢についてご紹介をいただきました。特に、各支部における活発な活動への謝意とともに、継続的な狂犬病予防接種の重要性、新獣医師会館の活用を通じた今後の県獣医師会の活動についてのご説明がありました。

議事においては、三谷藍先生に議長をお引き受けいただき、徳山支部、次いで周南獣医師会の順で進

行しました。令和7年度の事業計画および予算案については、一部修正の上、すべて承認されました。

議論の中では、狂犬病集合注射の際のマイクロチップリーダーの準備を含め、新たな実施体制への対応について、地元の市役所との調整が必要であるとの意見が出されました。また、予算の立て方や獣医連盟費の扱いに関しても、活発な意見交換が行われました。今後も透明で風通しの良い支部運営の大切さを実感できる充実した時間となりました。

一方で、現在、周南獣医師会では指定獣医師の引退年齢を一応70歳としておりますが、今年度にその年齢を迎える先生が複数名おられ、今後の事業実施や業務分担の在り方について課題も見えてまいりました。近年、新たに入会される若手獣医師が少ない状況の中、引き続き若手の先生方が参加しやすい雰囲気づくりが求められると感じました。

最後に、今年度予定されている「時重初熊先生の

墓碑掃苔供養」について、できるだけ多くの方にご参加いただけるよう申し合わせました。他支部の会

員の皆さまにも、ぜひご参加いただきたく存じます。



防府支部通常総会のご報告

防府支部事務局 豊川 剛
(とよかわ動物病院)

令和7年5月7日(水)に防府市の酒宴 来夜味において、20名の支部会員のうち8名の出席と、県獣医師会から田中尚秋会長のご臨席をいただき、令和7年度山口県獣医師会防府支部通常総会および防府獣医師会通常総会が開催されました。

総会では、中野正司支部長のご挨拶からはじまり、続いて、田中尚秋会長からのご祝辞を賜りました。その後、令和6年度の事業報告ならびに収支決算報告、令和7年度の事業計画・収支予算案等について

審議が行われ、いずれも異議なく承認されました。

総会後には懇親会を催し、田中尚秋会長を含め10名の先生方にご参加いただきました。時間が過ぎるのもあっという間で、とても楽しい会となりました。

この1年たくさんの先生方に助けていただき、つがなく支部総会および懇親会を開催することができましたことを、ご参加いただきました皆様および関係各位に改めてお礼申し上げます。



山口支部通常総会の開催

前山口支部長 藤原 宣義

去る5月9日、山口市湯田温泉「防長苑」にて、酒井理常務理事のご臨席をいただき令和7年度の通常総会を開催しました。

会員94名の大会場ですが、総会参加者は残念ながら24名で、委任状提出が62名と参加が非常に少ない状況でした。しかし開業の田中惇暉新会員や農林総合技術センター畜産技術部の金岡奈穂新会員、またこの度山口支部に転入された横山明宏会員や宮本明

奈会員の出席があり、新進気鋭の参加で有意義な総会となりました。

開会宣言の後、全員起立し黙禱により昨年6月にご逝去された岩崎明先生のご冥福を祈り、支部長挨拶、酒井常務の来賓挨拶をいただき、例年通り支部長を議長に議事に入りそれぞれの議案が全員挙手で承認されました。特に今年度は役員改選があり、新支部長に藤井満貴理事を、副支部長に平田晃一理事

を選任し、長年続いた藤原体制に終止符を打つこととなり、新体制での活躍が期待できます。なお、新支部長への引継ぎは会費収納事務終了後の予定です。

総会終了後、会場を2階に移し、藤井満貴新支部長の発声で懇親会に入り、新会員や異動で山口支部会員となられた方、さらに、新規に支部理事になられた会員などの自己紹介等いただき、和気あいあい

と懇親が進みました。最後に長年お世話になったお礼を兼ねて藤原旧支部長が締め挨拶をし、散会となりました。

大変長い間重責を受けながら十分な活動が出来ず反省をするばかりです。大変お世話になり有難うございました。今後も会員として協力して行くつもりですので宜しくお願い致します。



宇部支部通常総会開催報告

宇部支部 中越一郎

(なかこし動物病院)

令和7年5月9日(金)に開催された、令和7年度支部通常総会についてご報告させていただきます。

5月9日、午後6時30分より、宇部国際ホテルにおいて、支部会員39名中15名にご出席していただき、委任状24通を合わせて本会は成立致しました。

はじめに、網本昭輝支部長のご挨拶で開会となり、来賓としてご出席いただいた、山口県獣医師会長の田中尚秋先生にご挨拶を賜りました。続いて議長に選任された村田智明先生の進行で各議案について採決が執り行われました。

審議事項として、第1号議案：令和6年度事業報告ならびに事業収支計算書(決算)報告について、第2号議案：令和7年度事業計画(案)及び事業収支予算書(案)について、以上すべての議案が満場一致で採決されました。

また報告事項として、新獣医師会館について、会費納入の件、令和7年度県獣医師会長表彰者の推薦、会員の移動、県獣医師会の部会ならびに委員会の委員について報告を受けました。

総会終了後は同ホテルで、懇親会が行われ、来賓の田中会長を含め13名の先生方に参加していただきました。会員の異動もあったことから、各先生方には自己紹介していただき、その後、歓談となりました。普段あまりお話をする機会の無い先生方との交流や色々なお話をすることが出来、非常に有意義な情報交換の場になったと思います。

最後に支部の皆様には平素からご尽力いただき、無事に通常総会を終えることが出来ました。

今後とも引き続き宇部支部獣医師会の活動へのご協力、ご支援の程、よろしくお願い致します。



令和7年度公益社団法人山口県獣医師会長北支部並びに 長北獣医師会総会のご報告

長北支部 米 津 悟
(長門健康福祉センター)

令和7年5月9日、玉仙閣（長門市深川湯本）にて令和7年度公益社団法人山口県獣医師会長北支部並びに長北獣医師会の総会が開催されました。

総会には来賓として県獣医師会の白永伸行副会長を含め、合計18名が出席しました。大田支部長による挨拶から始まり、末永議長の下、令和6年度の事業報告、収支予算、及び令和7年度の事業計画及び予算について審議が行われました。

総会後は懇親会が行われ、今年は長門での開催となりました。大田先生のあいさつ後、乾杯の音頭は末永先生にとっていただきました。今年も去年同様

多くの先生方が参加して下さい、日々の業務の話やプライベートな話など、様々な事をアットホームな雰囲気の中楽しくお話しできました。私個人としても、長門保健所に配属となって3年目であり、長門での親睦会も2回目となり、何度もお会いした方たちも多く、リラックスして楽しめました。懇親会の後は、二次会、三次会も開催され長門市駅前のお店をはしごして夜遅くまでたくさんの方々と一緒に盛り上がる事が出来ました。長北支部のみなさん今年も大変ありがとうございました。今後も支部を盛り上げていけるように頑張りたいと思います。



下関支部総会のご報告

下関支部 原 田 秀 明
(なつ動物病院)

令和7年5月10日、晴れ渡る初夏のもと、例年通り下関市勤労福祉会館にて下関支部の通常総会が執り行われました。現会員18名の内、山中俊樹下関支部長を始め8名と、田中尚秋会長が来賓として参加されました。会長挨拶、来賓祝辞、事業報告、決算報告とつつがなく総会は終了しました。

総会終了後には昼食があり、皆さまの近況報告を

交えちょっとした懇親会となりました。

伊藤武夫先生は御年89歳を迎えられ、今年度末で下関支部を退会する希望を出されました。寂しくなりますが、5月23日に新しく開院される先生もいらっしゃり、獣医師会入会手続き中とのことであたらしく会員も増えます。今後も支部を盛り上げていけるように一致団結したいと思います。



第61回(2025年度)山口県獣医学会の開催要領

講演要旨の提出 令和7年7月25日(金)まで
発表用ファイルの提出 令和7年8月25日(月)まで

1 開催日：令和7年8月31日(日)

午前：産業動物・獣医公衆衛生部門

午後：小動物部門

※開催時間は、発表演題数により調整する。

2 場 所

YMfg維新セミナーパーク 研修棟2階 中研修室(山口市秋穂二島1062)

3 講演要旨の作成・提出

(1) 講演要旨の作成は、第61回(2025年度)山口県獣医学会講演要旨記入要領(別紙)により作成する。

(2) 講演要旨の提出は、メール又はCD-R、USBフラッシュメモリーに保存したものを令和7年7月25日(金)必着により(公社)山口県獣医師会事務局あてに送付する。

※メールアドレス：yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

(3) 学会部門は、学会運営委員の協議で区分を変更することもある。

(4) 学会の発表様式

ア 発表時間は1題8分(講演開始から6分まで青ランプ、8分で赤ランプ)以内とし、追加討論は2分以内とする。

イ 発表は備え付けのパソコン、液晶プロジェクターを用い、スクリーン1面による発表とする。

ウ 発表スライドのサイズは16:9及び4:3に対応する。ただし、4:3の場合は文字サイズや画像サイズが小さくなるため、横長サイズの16:9の作成を推奨する。

エ 画像レイアウトのバランス異常を防ぐため、次のフォントを推奨する。

日本語：MSゴシック、MS明朝

英語：Arial、Century、Century Gothic、Times New Roman

オ 発表時は舞台上に設置しているキーボード・マウスでスライド操作を演者自身で行う。

カ 原則として動画は受け付けない。動画やアニメーションを使用する場合は、事前に事務局まで連絡の上、各自でパソコンを持参し備え付けのプロジェクターを使用し、責任を持って映写する。

(5) 発表に係る映写

(備付けのパソコン・モニターを利用する場合)

ア Microsoft Power Point (Windows版)で作成する。Power Point (Mac版)は使用しない。当日は、Power Point 2016を使用する。

※Mac版での発表を希望する場合は、事前に事務局に申し出ること。

イ 画像が多い場合には、映写に時間を要することが想定されるので、必ず発表時間内に終了できることを確認する。

ウ 発表用のファイルは、CD-R又はUSBフラッシュメモリーに保存して、学会名、演題名、演者氏名を明示して、令和7年8月25日(月)必着で下記あてに送付する。

※送付先 〒754-0002 山口市小郡下郷1080-3 (公社)山口県獣医師会

エ 準備の関係上、送付受付日以後の受付及び修正はお断りする。

オ ウイルス対策上、演者から直接の受付及び修正はお断りする。

カ 映写用の予備の電源は準備する。

(6) パソコンにコピーした発表用ファイル及び送付されたCD-R等は、責任をもって消去又は処分する。

(7) 次演者は、前演者の講演開始とともに必ず「次演者席」に着席する。

(8) 質問、追加討論をする者は、発言に先立ち所属、氏名を述べる。

(9) 講演、質問、追加討論等で時間を超過する場合は、座長の権限により打ち切ることがある。

4 研究発表者並びに共同研究者について

研究発表者・共同研究者：会員及び会員以外の者

5 参加費

(1) 山口県獣医師会会員・学生(大学生・専門学校生等)：無料

(2) 愛玩動物看護師等：1,000円

(3) 上記以外：3,000円

6 注意事項

学会運営の進行の妨げになるような行為(携帯電話の使用や着信音、会場内の録画や録音、過度な写真撮影など)はお断りする。

発 表 申 込 書

令和 年 月 日

山口県獣医学会長 様

住 所 _____

電話（携帯） _____

メールアドレス _____

所 属 _____

氏 名（ふりがな） _____

担当教官名※ _____

※該当者のみご記入ください

この度、第61回（2025年度）山口県獣医学会において発表したいので、下記のとおり
申込みます。

記

1 演題名

2 区 分 [該当する区分に○をつけてください]

(1) 山口県獣医師会会員

(2) 学生

(3) 愛玩動物看護師等

(4) その他 ()

※記載いただいた個人情報は、当学会の目的のみに利用します。

令和7年度第1回学会運営委員会開催報告

常務理事 酒井 理

令和7年5月29日(木)午後1時30分から県獣医師会館2階会議室において、令和7年度第1回学会運営委員会が開催され、中市統三学会運営委員長の進行により、次の4件の議題について、協議していただきました。

議題1 令和7年度事業計画について

議題2 第61回山口県獣医学会について

議題3 山口獣医学雑誌投稿規程の一部改正について

議題4 山口獣医学雑誌第52号について

議題1では、事務局から今年度の本会の事業計画について説明しました。

議題2では、今年度の県獣医学会を次のとおり開催することが決議され、県学会開催要領、発表申込書及び講演要旨記入要領が承認されました。(本号別ページで紹介するとともに、本会HPにも掲載します。)

なお、県学会終了後に開催される学会運営小委員会において、県学会発表演題の中から、獣医学術中国地区学会(令和7年10月11日(土)~12日(日)岡山市)で発表していただく演題が選考されます。

※本会会員の発表者の獣医学術中国地区学会参加費及び旅費は、本会が負担します。

開催月日：令和7年8月31日(日)

開催場所：YMfg維新セミナーパーク
(山口市秋穂二島1062)

議題3では、投稿論文に行番号を記載する、山口獣医学雑誌投稿規程の一部改正(案)について、了承されました。

議題4では、山口獣医学雑誌第52号を発刊することとし、投稿を募集することとなりました。投稿規程は、本会ホームページに掲載します。

リレー随筆

山口支部 中谷 幸穂
(農林総合技術センター畜産技術部)

山口県農林総合技術センター畜産技術部の中谷です。大学の同級生である西本くんの頼みなのでバトンを受けました。とはいえ、特に書く当てがあったわけでもないのに締め切り日を過ぎて慌てています。

みなさん習い事ってされていますか？最近おとなの習い事なんていうのも流行っていますよね。子供たちの手がちょっと離れてきたころから何かやりたいなーと思いつつ早〇年。独身の時はよくカルチャースクール(英会話とかボクササイズとか...)に通う方だったので、ダラダラと毎日が過ぎていくという感じがしています。子供たちにも色々やらせたいなと思い、英語に公文に音楽教室、サッカー、水泳、空手と、やってみたいと言いつつやらせるようにしています(兄弟が二人とも同じことをしないのでたくさんやっているように見えますがそうでもなく、やめてしまったものもあります)。興味があると言えばすぐに無料体験に行くのですが、成長するにつれて、コーチが怖いとかメンバーがちょっと合わないとかケチをつけだし、最近新しいことは始められていません。家に帰ってYouTubeをみたり、ゲームをしたりするよりも習い事の方が断然いいと思うのでやらせたいのですが、中谷家では「自分がやる」と言わないと始められないルールなので今はわりとメディア時間が増えています。最近やりたいと言いつつやれてないのがバスケットボールで、仕方なく自分が帰宅

後小学校のグラウンドに連れて行きます。私は運動が得意な方ではないですがとにかくメディアから遠ざけたい一心で一緒に遊んでいます。そうそう、習い事ではないですが、子供たちが乗ってるのをみて自分もやってみたいと思っているブレイブボードは、自分の分を買ったけどまだ乗っていません。そうだった練習しよー。

次はこれまた同級生つながりで、県の柳井健康福祉センターにいる田中雅樹くんにおねがいします。



宮 入 貝 供 養 碑

岩柳支部 三 好 雅 和

牛、馬、豚、鶏などの家畜の供養碑や畜魂碑は各地にあります。鯨、魚、蜜蜂などの供養碑も時々見ることがあります。一方、変わったものとして先日「宮入貝供養碑」というものを見る機会がありました。所用で福岡県久留米市を訪れた際に筑後川水系の思案橋川に隣接する新宝満川公園というところで見かけました(写真1)。一般に供養碑は人の役に立った生き物に感謝するものですが、日本住血吸虫の中間宿主として重要な役割を担っていた宮入貝を供養する碑を見て、「疾病の撲滅」と「ひとつの生物の絶滅」を考えると複雑な気持ちになりました。



(写真1)「宮入貝供養碑(生息最終確認の地) 我々人間社会を守るため、人為的に絶滅に至らされた宮入貝をここに供養する。平成12年(西暦2000年)3月建立 筑後川流域宮入貝撲滅対策連絡協議会」と刻まれています。

近年、国内では日本住血吸虫症を聞くことはほとんどありませんが、過去には山梨、広島、福岡、佐賀などで原因不明の奇病として大きな被害をもたらしたことが知られています。明治37年になって原因となる吸虫が確認され、さらに大正2年に中間宿主である宮入貝が特定されています。当初、駆虫薬として使用されていたアンチモン剤にはかなり副作用があったこと、またセルカリアに接触する機会があれば再感染が繰り返されることから、流行地では根本的な対策として宮入貝の撲滅対策(焼却、生石灰などの殺貝剤散布、川岸や溝渠のコンクリート化など)が進められました。関係者の多大な努力の結果、国内では1980年代までに人の発症例は見られなくなっています。一方、家畜の日本住血吸虫症についても過去に牛や馬などでも被害があったようですが、近年では昭和45年、46年に利根川流域の河川敷で飼養されている乳牛で感染が報告されています(日獣会誌、家畜診療、獣畜新報)。また、同時期に実施された調査では牛が放牧されていない場所に生息する宮入貝からセルカリアが高率に検出されています。加えて野ネズミで感染が確認されたことから牛以外にも野生動物が発育環の維持や拡散に大きな役割を果たしていたことが推察されています(千葉衛研報告)。さらに千葉県では同時期に人での感染も確認されたことから、昭和46年に自衛隊が緊急出動して河川敷など火炎放射器で焼いて宮入貝を駆除した記録がありました(同様の事例は昭和36年に静岡県でもあり)。

その後、川岸や溝渠のコンクリート化、土地改良といった宮入貝撲滅対策が各地で進められた結果、日本住血吸虫症は平成に入ってからそれぞれの流行地で終息が宣言されています。また、その後もサーベイランスが継続され、各地で宮入貝の撲滅が確認されています。その結果、環境省のレッドリストでは福岡県、広島県、岡山県、静岡県などでは絶滅種、千葉県では絶滅危惧種として記載されています。写真の供養碑は非常に立派なものであり、「日本住血吸虫症の撲滅に向けた長年の取り組み」と「宮入貝を絶滅させたことへの弔意」が記されていました。

一方、慰霊碑を拝んだ後日本住血吸虫症関係の過去の資料を調べている中で医学系の寄生虫学の成書に「肝吸虫(*Clonorchis sinensis*、第1中間宿主はマメタニシ、第2中間宿主は淡水魚)の流行地の一つ」として山口県名田島の写真が掲載されていることに気づきました(写真2)。この本は1980年刊行であり、その頃は全国各地の流行地の一つとして医学関係者の間では広く知られていたのでしょう。山口市名田島は中部家畜保健衛生所の近くであり、私も昭和60年代から当地域の酪農家を巡回することが多かったのですが、肝吸虫の話は全く聞いたことがなかったので大変驚きました。現在、国内では肝吸虫症を聞くことは稀ですが、最近の医学系の成書でも第2中間宿主であるフナ、コイ、モツゴといった淡水魚からメタセルカリアが検出されていること、淡水魚の生食には注意することが記載されています。現在でも人、動物に感染する可能性があることも考えられます。犬や猫を診療されている先生方の中には肝吸虫の寄生を確認された御経験があるかもしれませんが、一般の人でも留意しておく必要があると感じています。

このたび、久留米市の宮入貝供養碑を見たことがきっかけで国内での日本住血吸虫症の歴史、さらに肝吸虫関係の地元の過去の情報を知ることができ、改めて供養碑の写真に感謝の念を申し上げました。



267

(写真2) 臨床寄生虫学アトラス P55 (山口富雄 編著、南江堂、1980年)

Fig. 263	肝吸虫症の流行地	琵琶湖野田の浮見堂付近。
Fig. 264	肝吸虫症の流行地	岡山市西大寺津田。
Fig. 265	肝吸虫症の流行地	岡山市西大寺光政。
Fig. 266	肝吸虫症の流行地	岡山県倉敷市吉岡。
Fig. 267	肝吸虫症の流行地	山口県名田島。

AIツール

下関支部 原 田 秀 明
(なつ動物病院)

支部総会報告に続き今月2報目の投稿です。会報委員会の原稿担当月である事をすっかり忘れており、支部会時にみなさまに報告するようなネタが無いか確認しましたが、特に無いとのことで今回も独断による支部関係ない内容です。

ChatGPT が世に出て数年、わたくし、今までなんとなく敬遠してました。でも、なんとか自由になりたい、仕事を効率化して余暇を楽しみたい、そんな一心でこの度さまざまなAIツールを使い始めてみました。まだレベルとしては1や2ですが、今後興味を持たれて始める方にはいい指標になるかも知れません。(すでにがっつり利用されている方は物足りないと思います。)

まずChatGPT、ヤツは出来る子ですね。全部が正しいとは言いませんし、チェックは必要ですが、例えばオーナーさんに啓蒙するためのブログ内容の概要を作ってもらったり、説明文をつくってもらったり、文体もかきこまった内容、くだけた表現、既存のHPになぞらえた表現、結構色んな適応をしてくれます。

また私、ひっじょーに英語が苦手なのですが、論文を和訳する精度が高く、ざっと読む場合に大変助かっております。

また、もし会議やスタッフとの面談を頻繁にされている方は、文字起こしソフトで文字起こししたものをChatGPTにコピペして「要約して」、とお願い

するだけで綺麗にまとめてくれます。もう議事録いらずです。

文字起こししたものはスタッフとも簡単に共有できるのでお勧めです。

なお、録音・文字起こし・(ChatGPTを用いた)要約に特化したものと言うと「Plaud Note Pin」という専用デバイスがあり、個人的にはここ最近の一番のヒット商品でした。ご興味あればぜひ調べてみてください。

それから「Perplexity」というアプリ。検索に特化しています。なんとなく調べたいものの周辺情報や情報の出典を含めて調べたい、知識を広めたいときに便利です。気になるだろう情報も拾ってくるので、気になったものをどんどん追加でタップしていくとどんどん情報が広がっていきます。

なので最近は公式HPなどを確認したいときは「Google検索」、あまり知らない情報で周辺知識も知りたい場合は「Perplexity」、文を創作・まとめたり、論文の和訳、アイデアを出したり深めたりするのにChatGPTという使い分けになってきています。

語り始めたらあつという間に文字数が来てしましますね。なお、今回のこの内容はAIツールを使わずに、きちんと自分で書いております。気になるけど全文読むには長いなあという文などもコピペしてChatGPTさんに要約してもらえばある程度の射た要約になると思います。ぜひお試しあれ。

One Welfare 国際研究センター—一般公開シンポジウムの報告

山口支部 中 間 實 徳
(山口大学名誉教授・東亜大学名誉教授)

去る5月7日(水)午後1時15分から山口大学・大学会館で、「One Welfare と野生動物医学」～人と野生動物の共生のために～というテーマでシンポジウムが開催されたので、その概要を報告する。「One Welfare とは、人と動物、生態系の健康を一つと捉え、これらを一体的に守ろうという考え方をワンヘルス(One Health)という。ワンウェルフェア(One Welfare)は人と動物の健康は一つであるという考え方から、健康と同時に福祉や幸福感も一つであるとい

う考え方に進化させるものである。」と謳われている。

3人の演者とそのテーマは以下の通りである。

1. 森光 由樹(兵庫県立大学准教授)「ニホンザルとツキノワグマのワイルドライフマネジメント」

兵庫県のニホンザルは4つの地域個体群が生息している。それぞれ孤立していて群れ数も少なく絶滅危惧個体群である。ツキノワグマは、近畿北部および東中国地域個体群が生息しているが、1900年代後

半、開拓や捕獲などの影響で生息頭数が約100頭以下に激減していた。1980年代後半より、兵庫県に生息する大型獣（シカ、クマ、イノシシ、サル）の個体数は増加し、それに伴い農業被害や生活被害が増加した。その問題解決に向けての体制の整備として、兵庫県は「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」に基づき、ニホンザルおよびツキノワグマを含む大型野生動物の「特定保護管理計画」を策定した。その主な目的は、絶滅を回避することとその被害を防止することである。地域個体群の健全な維持と被害防止の両立を図るため、出没や被害の状況に応じて捕獲頭数の制限を実施すると共に被害防止方法の開発と普及を実施した。さらに、対策を進めるために年度別計画を策定している。今後の対策と課題として、近年では大型野生動物が人の生活圏に出没し、都市型野生動物（Urban Wildlife）による問題が多発している。その原因の一つとして、人口減少時代を迎え、里山の管理が行き届かず野生動物の個体数が増加した。サルの場合、直接観察により個体識別が可能のため、群れの中で特に問題行動（農作物依存が高い個体、ヒトへの威嚇する個体）を起こす個体を選択的に捕獲することで加害レベルを下げる取り組みが行われている。クマの場合、人とクマとの棲み分けを図るために「ゾーニング」管理を導入し、集落周辺へ出没する個体について捕獲強化を進めている。

2. 下田 宙（山口大学共同獣医学部准教授）「野生鳥獣が運ぶ人獣共通感染症」

我々が日常において野生動物に遭遇すること、ましてや接触することはまれである。しかし、我々の身近に多数の野生動物が生息していることもまた事実であり、近年我々と野生動物の生活圏の境目が曖昧になってきている。サルやイノシシなどの野生動物が山口市内でも目撃され、時としてヒトに危害が加わることもある。こうした野生動物との接触機会の増加は、我々にとって新たなリスクをもたらしており、その一つとして挙げられるのは「人獣共通感染症」である。「人獣共通感染症」とは、動物とヒトの間で感染が伝播する病気の総称であり、ウイルス、細菌、寄生虫、真菌など多様な病原体によって引き起こされる。特に近年では地球温暖化や開発の影響により、野生動物の行動範囲が変化・拡大し、これまで無縁だった病原体にヒトや飼育動物が感染する機会が増えている。このことから野生動物における感染症の調査は人獣共通感染症のリスクを知り、

野生動物・ヒト・環境の福祉を考えるOne welfare の観点からも極めて重要である。当教室でこれまでに調査、研究を進めてきた以下の3つの感染症について紹介する。

1) 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

2012年に国内では山口県で初めて報告されたSFTSはSFTSウイルスによって引き起こされるマダニ媒介性のウイルス感染症である。発熱、消化器症状、血小板減少、白血球減少などを呈し、致死率は20%前後とされている。特に高齢者ではリスクが高いとされている。また、ネコやイヌでの抗体保有率は、九州、中国、四国、近畿に多い。また、イノシシやシカでも高い抗体保有率が認められている。

2) E型肝炎

E型肝炎はE型肝炎ウイルスによって引き起こされ、ブタ、イノシシ、シカ他、アライグマ、ヌートリア、アナグマなどが自然宿主とされている。国内では加熱不十分な肉の喫食による感染が報告されており、食肉を介した人獣共通感染症である。通常は一過性の肝炎として経過するが、高齢者や妊婦では重症化のリスクが高く、特に妊娠中の感染では劇症化し、致死率が20%に達するとされている。

3) レプトスピラ症

レプトスピラ症は、レプトスピラ属菌によって引き起こされる感染症で、主に野生動物や家畜の尿を介して水や土壌が汚染され、それが人に接触することで感染が成立する。特に湿潤な環境や水辺での活動を通じて感染リスクが高まる。発熱、筋肉痛、黄疸、腎障害などを起こし、重症化すると致死的になることもある感染症である。

3. 斎藤 慶輔（北海道釧路湿原野生生物保護センター・猛禽類医学研究所代表）「北海道における希少野生猛禽類の保全医学活動」

猛禽類医学研究所は、環境省釧路湿原野生生物保護センターを拠点に、保全医学の立場から絶滅の危機に瀕した猛禽類の救護や傷病原因の究明（環境省事業）、事故などの予防活動を行っている。研究所が取り扱う希少猛禽類は、シマフクロウ、オオワシ、オジロワシだけでも毎年100羽近くに上るが、その多くは重症もしくは搬入時にすでに死亡している。収容された傷病動物に対しては、治療やリハビリ、必要に応じた野生復帰後の追跡調査までが一貫して行われる。診療では研究所が所有する先進的な医療機器が駆使され、常に最新の鳥類医学の知見や技術を導入するなど、救急救命に最善を尽くす努力がなさ

れている。

希少種の保全においては、“増やす”試みと“減らさない”ための対策が両輪として機能しなければならない。演者は30年以上にわたり、傷ついたり死亡した野生猛禽類を診てきたが、車との衝突や感電、鉛弾の摂食による鉛中毒が大半を占めている。近年は発電用風車との衝突や列車事故が増加傾向にある。環境汚染物質がもたらす世界的な問題として、希少猛禽類の鉛汚染が存在する。北海道においては、1990年代よりオオワシやオジロワシなど200羽以上が鉛中毒により死亡している。本州以南にも分布するクマタカにおいても、37羽の鉛中毒個体が確認されている。主な鉛汚染源は狩猟用の鉛ライフル弾や鉛散弾で、特に段階的に鉛弾の使用が禁止されたが、猛禽類の鉛中毒は現在も発生している。

希少猛禽類の鉛汚染実態や潜在的なリスクを正確に把握するために、死体や傷病個体のモニタリングに加えて生体捕獲調査を全国各地で行うことは、

2025年から段階的に始まる狩猟用鉛弾の全国規制が有効に機能しているか否かを確認する上で非常に重要である。



お知らせ

今後の主な行事(予定)

- 6月3日 ・ 獣医学術中国地区学会幹事会（岡山市）
- 6月8日 ・ 令和7年度定時総会（防長苑）
- 6月8日 ・ 令和7年度山口県獣医師連盟通常総会（防長苑）
- 6月8日 ・ 令和7年度第2回理事会（防長苑）
- 6月17日 ・ 産業動物・獣医公衆衛生合同部会委員会（県獣会館）
- 6月19日 ・ 第1回小動物部会委員会（県獣会館）
- 6月25日 ・ 日本獣医師会通常総会（東京都）

事務局だより

- 5月7日 ・ 防府支部総会（防府市）
- 5月8日 ・ 岩柳支部総会（岩国市）
- 5月9日 ・ 役員候補者推薦委員会（県獣会館）
- 5月9日 ・ 日本獣医師会産業動物臨床・家畜共済委員会（オンライン）
- 5月9日 ・ 山口支部総会（山口市）、宇部支部総会（宇部市）、長北支部総会（長門市）
- 5月10日 ・ 徳山支部総会（周南市）、下関支部総会（下関市）
- 5月13日 ・ 令和7年度第1回理事会（県獣会館）
- 5月27日 ・ 会報編集委員会（県獣会館）
- 5月29日 ・ 令和7年度第1回学会運営委員会（県獣会館）

1日 13日 事業推進会議

次回編集委員会 6月24日(火) 13:30~

山口県獣医師会会報 第769号 令和7年6月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷